

齊藤正明（さいとう・まさあき）先生



一般社団法人日本レコード協会
会長

株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント
代表取締役社長

<ビクターエンタテインメント株式会社>

昭和 45 年(1970 年) 東芝音楽工業株式会社(のちの東芝 EMI 株式会社) 入社

平成 9 年(1997 年) 同社 代表取締役社長

平成 17 年(2005 年) 同社 代表取締役会長 兼 CEO

平成 21 年(2009 年) ビクターエンタテインメント株式会社 代表取締役社長(現職)
(現 株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント)

<一般社団法人日本レコード協会>

平成 10 年 4 月～平成 17 年 6 月 社団法人日本レコード協会 理事

/平成 21 年 12 月～ (現 一般社団法人日本レコード協会)

平成 15 年 3 月～平成 17 年 6 月 同 副会長

/平成 22 年 5 月～

平成 25 年 7 月 同 会長就任(現職)

《講義概要》

一般社団法人日本レコード協会会長であり株式会社 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント代表取締役社長として音楽産業の発展に尽力されている斉藤正明氏がレコード産業の構図と現状について講義を行った。

講義ではまずレコード業界の歴史と産業構造に触れ、レコード産業の成り立ち、レコード会社と音楽出版社の違い、作家やアーティスト・レコード会社などの権利を保護する著作権・著作隣接権制度などについてわかりやすく講義された。

次にレコード産業の現状については、日本が 2012 年度の統計で音楽パッケージソフトと音楽配信の売上合計が世界第一位であること、パッケージ売上がその 8 割を占める特徴的な市場であるなどの説明をされた。しかし、世界の音楽産業全体の落ち込みやアメリカ・イギリスでは音楽配信事業が伸長し、パッケージの売上が減少しているとの現状を知らされた受講生は驚きを隠せない様子だった。

このような状況にあり、日本の音楽産業がパッケージ市場を維持しつつ、かつ音楽配信売上も伸ばすため、定額制聴き放題（サブスクリプション）サービスや高音質音源の配信など新たな可能性にチャレンジしながらいかに維持・発展できるかが今後の課題であると述べられた。

具体的な課題として、違法音楽配信への対策、音楽配信サービスの更なる成長、特にハイRez音源配信の需要拡大、そして世代を超えたヒット作の創出などが挙げられた。

課題に対する対応策として、まず違法配信対策については 2013 年度で同協会が約 80 万件の違法音楽ファイルの削除要請を行っていること、またその大半が海外サーバーを利用したサービスによるアップロードであると述べられた。

次に音楽配信サービスについては、今後特に CD を越える高音質のハイRez音源配信サービスが徐々に市場を拡大しつつあり、レコード会社各社もジャンルや楽曲のレパートリーを増やす傾向にあるとの説明があった。ハイRez音源という言葉自体を初めて耳にしたという学生もおり、今後の再生機器（ハード）の普及と相まった市場の拡大が期待される。

次にレコード産業の将来については、レコード会社の従来のビジネスは基盤として揺るぎなく、更に関連する事業に可能性を見出しながら取り組んでいると述べられた。また、日本国内では少子化から懸念される今後の市場規模の縮小に伴い、積極的な海外展開が必要となると述べられた。

現在、アニメやその音楽が海外で人気を得ているが、2020 年の東京オリンピックや政府のクールジャパン戦略という追い風の中でどうチャンスを活かし、海外で市場を確保するかが課題であると示された。

また、今後の音楽市場にとって重要となってくるのは新人アーティストの育成と世代を超えたヒットの創出であると述べられた。

最後に将来のエンタテインメント産業の担い手として、若く、バイタリティや意欲があり、エンタテインメント業界を盛り上げ世界に広めることを目指す人材が生まれることを期待すると述べ、講義を終了した。



<学生からの質問>

Q1.

無料視聴者拡大の抑制について、海外からの違法な無料配信などが増加しているが、その点を裏手にとって、レコード会社の利益拡大に繋がると（無料配信への正規コンテンツ掲載など）の考え方はないのでしょうか。（立命館大学・文学部・3回生）

A. 違法配信はレコード産業にとって、大きな問題です。例えば、無料配信によってアーティストの音楽を聴き、商品購入やコンサートの動員につながり利益に行き着くかもしれない。レコード会社各社は、現在 YouTube に視聴用ビデオクリップの配信をしているが、どこで利益回収ができていないのが悩ましい点です。レコード会社がアーティストの権利も持ち、違法配信からの視聴であってもコンサートやグッズ販売などで利益回収ができるようになれば、帳尻が合うようになるかもしれませんが。これからの課題だと思います。

海外の動画サイトなどで権利者に無断で公開されているビデオクリップは違法配信であり、著作権法に違反する行為なのでレコード協会長としては撲滅に取り組む立場として安直に「宣伝効果がある」とは言えないですね。

Q2.

近年、ネット配信やミュージックプレイヤーの普及により、CDの売上に問題が生じていると思いますが、どのように対策していますか。（立命館大学・法学部・4回生）

A. CDの売上が影響を受けていることは確か。だが、有料音楽配信ビジネスが今後、CDの売上の落ち込みを埋めることになるだろう。CDも発売されて30年経つため、CDに取って代わる新しいパッケージキャリアが出てくるかもしれない。高音質音楽の配信などによって、CDの売上の落ち込みをカバーできるようにしたいと思っています。

Q3.

CD売上の現状について、過去と比較して詳しく教えてください。（立命館大学・映像学部・3回生）

A. 1998年までCD売上は右肩上がりでしたが、98年をピークに落ちてきています。レコード協会の活動も、以前はパッケージの海賊版の撲滅が課題でありましたが、現在はネット上の海賊版をどう防ぐかが大きな問題となっています。CD売上面では、大変苦戦しているという状況です。

Q4.

CDの売れゆきが最近あまりよくないために配信に変更するとどこかで聞きましたが、完全に販売をやめてしまうことはありますか。（立命館大学・産業社会学部・3回生）

A. 何十年か後にはCD販売がなくなる可能性もあるかもしれませんが。ただし、年配の世代には音楽配信に対して距離がある人もおり、パッケージに対し愛着・便利性を感じている人もいます。CD販売がなくなることはないだろう。ただし、配信だけのアーティストが出現してくる可能性が十分にあると思います。現に、配信でデビューする新人アーティストも増えています。



Q5.

私はCDショップでCDを買うことが多いが、CDショップの現状・展望はどうか。(粟谷先生)

A. CDショップはどんどん少なくなってきている。かつ、大型チェーン店の増加により、「町のレコード屋さん」が少なくなってきています。しかし、CDショップ店頭でCDのパッケージを見てワクワクしてきた世代でもあるため、この感覚がなくならないよう、今後も様々な施策を行って参ります。

Q6.

1980年代にCD制作ピークであり、当時は音楽番組が多くあったため、CDの売上に貢献していたが、最近では音楽番組が減少したことが、CDの売上低下や違法配信が増加した原因に思いますが、その点はどうお考えですか。(立命館大学・産業社会学部・4回生)

A. かつては民放局各社が週1回音楽番組を放送していた。一方で、BSで音楽番組が増えており、アーティストに絞ってライフワークを取り上げるなど音楽ファンにとっては楽しく面白い番組が増えています。しかし地上波での番組が少なくなっていることは寂しい点であります。各レコード会社が、歌番組が復活することを各放送局にアプローチしています。

現在アニメ番組が増えており、アニメソングを中心にヒットも出る可能性があり、テレビと音楽の関わり方に変化が生じているが、オーソドックスな歌番組が増えるよう働きかけたいと思っています。

Q7.

1998年から売上低下しているが、それは何か原因があるのでしょうか。(立命館大学・産業社会学部・3回生)

A. インターネットによる違法配信などにより現在、10年以上継続してやっていける新人が出にくくなっているように思います。アーティストとファンの密着度が変わってきており、配信を通じて手軽に聴いてそれで終わり、というようなことが増えているのかもしれない。

昨年は、レコード業界の記録としてミリオン(100万枚以上セールス)アルバムが1つもなかった。かつての歴史の中ではなかったことだが、原因を考えると、アーティストのパワー、レコード会社にチャレンジ的な新しいものが出ない、音楽が聴くものから観るものに代わってきているなどが原因のように思います。

Q8.

ハイレゾ音源について、機材を持っている人が少なく、今後の需要を喚起できるのでしょうか。(立命館大学・映像学部・2回生)

A. ハイレゾ音源の機材はクラシック・ジャズファンが中心に購入すると思っていたが、ポピュラー音楽の視聴層も購入しています。現在ハイレゾ音源のデジタル機器は高額ではあるが、今後、価格も下がってくると思う。あと3年もすれば携帯電話からハイレゾ音源が聴けるようになるのでは。

こだわりの、二極化しており、高品質を求める層が、今後どのくらい広がるかにもよって機材価格は変動するだろう。

Q9.

YouTube で違法に上がっている楽曲の中で、少しのピッチの高低により削除されず残っているものがある。違法楽曲削除の基準は何かあるのか。(立命館大学・映像学部・3 回生)

A. レコード協会ではフィンガープリント（音響指紋）を読取判別するシステムを取り入れており、且つ人の耳で聴き削除要請をしています。また、一般の人からの通報により削除要請している。ピッチの高低により残っている音源は、フィンガープリントから漏れて、音源が残りやすくなっているのではないかと思いますので、通報があり次第削除対象にしたいと思います。CD 音源などが権利者に無断でアップロードされているものはすべて削除の対象であるためいずれは削除されます。

Q10.

世代を超えたヒットが課題の一つとおっしゃったが、その背景として、家族のあり方が大きく関係していると思っている。核家族の中でも親子間の分離もあるが、マスメディアを駆使して世代を超えたヒットに挑むのか、みきりをつけ各世代に対して対応するのか、そのあたりのバランスはどう考えているのか。(立命館大学・産業社会学部・3 回生)

A. 現在、核家族だけでなく核世代化も進んでいて、横軸で行動や、聞く音楽も固まっている。中々世代を超えることは少ない。

サザンオールスターズは 3 世代、洋楽のコンサートなどは幅広い世代がコンサートに来る特殊な例なのかもしれないが、スーパースターの域に行くことは世代をまたがることにもつながります。

夏フェスなどに年配の方は来ないが、ドラマ主題歌などは世代を超えやすい。ただしドラマとタイアップ曲がないとやはり、ヒットにはつながらない。それを地道に積み上げるしかないです。

